



コミュニティバス運行後

答 共存を図る



コミュニティバス

問 片岡政徳

バス運行後、タクシー会社への影響の調査は。一社では収入が大幅減で危機と聞く。営業が中止となればバスでは対応できず、行政が住民の足を奪うことになる。共存を図るべきと考えるが。合併支援措置の終わる27年度後の継続可能か。大崎診療所にバス利用者優先予約券があるか。治療でバスに遅れた場合、200円で差額は診療所でタクシー利用が可能か。

答 町長

調査は行っていない。影響は自家用車の普及、人口減など要因があり把握はしていない。生徒の送迎、福祉タクシー券などがあるが、今後は他町村の事例も参考にし、事業者の提案も聞き共存を図る。指定管理はタクシー会社では対応できないと聞き、社協に委託した。27年度以降の財源は厳しいが継続を考えている。バス優先券はない。急患などで遅れた場合は乗り合いで無料となる。

問 片岡

影響の調査は当然やるべきで忘ったのでは。乗合無料タクシーの利用回数、財源は。地域公共交通会議のメンバーは。

答 副町長

影響調査は踏み込んでの形は難しい、データーの提示により対応したい。タクシー利用は、21年度17回20770円、22年度2回4630円で診療所の運営費で。地域公共交通会議は住民代表3人、県、四国運輸局、バス事業者、タクシー会社、副町長で組織。

奨学資金貸付保証人

問 片岡

現在は他人に保証人を依頼するのは難しい面もあり、本人借入れで、父母また親族の保証人と規則の変更はできないか。

答 教育長

借主が未成年者で保護者が実質的な借主となるために保証人が必要で、規定変更は難しい。



中越家のしだれ桜

過疎、高齢化で区長を作れない地域も増えている。区長制度、区割の見直しが必要では。

問
片岡

区長制度

区割の見直しは

答 消防分団数程度

答
総務課長

現在156人の区長で10世帯以下が55地区あり、今後増え集落の維持も困難となる。地域の再編と併せて検討する。

答
池川支所長

区長はいないが「祭りなどで隣の地区と合区できない」という話も聞き合区は難しいと考える。

問
片岡

区割の変更は難しいが地域長組織を作り、その下に区長を置き住民と行政をつなぐ形にしては。

答
町長

地域懇談会、区長会で声を聞き、仁淀地区にある地域長制度を取り入れる考えを持っている。消防団の分団数程度が適正と考える。



新田・織合橋線

答 地元と協議



バス（津野町）

4月から町民バス大崎・織合橋線を、太郎田まで延長し、週一便（毎週火曜日）の運行となる。今後は利用状況などを参考に地元と協議し地域に合った運行形態を検討する。

答
町長

3月末で津野町有バスの運行が廃止になり、本町も4月から週一便運行の予定表が配布されているが、週一便になったのは町民の声を聞き対応したのか。

問
坂本 伝一



織合バス停

バス停

問
坂本

老朽化した織合バス停の今後の対応は。

答
企画課長

昭和59年に旧仁淀村が代替えバスの運行を開始した時にトイレ付きのバス停を設置している。現在改良中の国道439号の完成を待って、新国道沿いに新たに設置か、現在のバス停を改修するか協議する。



バス料金500円に

答 支援策で

答

副町長

指定管理委託料133

問

野村安夫

コミュニティバスの運行委託の赤字見込額は。

問

野村

0万円、その他に約4万円が赤字と見込んでいる。

何十年も本町の足代わりになっているタクシー会社を圧迫することは、利用者にとって大問題で、乗車距離に関係なく一律200円である料金の改正を。

答

副町長

コミュニティバス料金を上げてタクシーを守るのではなく、本町の公共交通会議の中で議論し、支援策を検討する。

問

野村

過剰なサービスを続けると税金の投入がますます多くなるのでは、一律500円位に上げることではないか。

答

副町長

社会福祉協議会の体制が良いのでお願いしている。料金を上げることは考えていない。



そば打ち（仁淀川町てっぺんそば組合）

町の特産物

答 可能性を探る

問

野村

本町では、全国的にアピールできる産物などの推進は図れないか。

答

町長

農業プロジェクトチームを立ち上げ、可能性を探りながら、有利な作物、商品の生産に取り組んでいく。

問

野村

原点に返り、ソバ、大豆、小豆などの生産の奨励をし、それを元に商品は作れないか。

答

町長

ソバ打ち研究会が取り組んでいるソバ、大豆、小豆は有効な産物であると思う。

答

産業建設課長

お茶、高糖度トマトの生産に力を入れながら、ソバ、大豆などにも取り組んで行く。



トマト定植後10日目